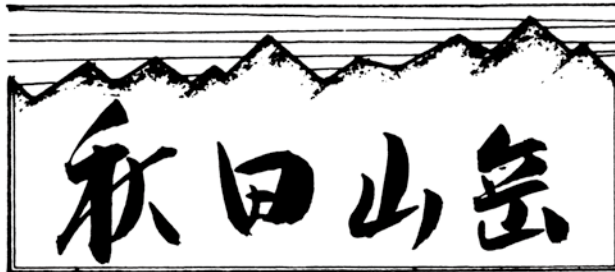


2018



平成 30 年 10 月 発行

No. 109

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

安藤武俊氏 追悼

安藤武俊名誉顧問を悼む

長 岩 嘉 悦

私と安藤さんとは、日本山岳会秋田支部設立当時の発起人のメンバーであり、会員番号も私が四八五九、安藤さんは四八六〇と連番で、紹介者は同じで初代荒巻廣政支部長と保坂隆司氏(現名誉顧問)でした。

先日、本荘山の会会長の荘司昭夫さんから「安藤武俊前会長を悼む」という、特別追悼号の会報「山旅」が私に送られてきました。

その内容は、荘司会長の弔辞に始まり、延べ十九人の会員の思い出がエピソードを混じえて書かれていて、皆さんからの感謝の言葉でした。

その中から安藤先生を、

- ①山の哲人、②野武士のような風貌、
- ③武人の岳人、④優しい人柄、⑤知識と経験の素晴らしい指導力、⑥山河の流れの如く自然節理の人生そのもの、
- ⑦鳥海山にゴンドラを造らせず山を守った安藤、⑧山菜取りと調理の名人、
- ⑨山と海と酒をこよなく愛したみどり丸の船主、⑩日本三大ピッケルの門田のピッケルを荘司会長に贈呈等、素晴らしい表現力で憶んでいます。

又、ある時は安藤武俊前会長ご夫妻



感謝会を開く等、家族ぐるみの素晴らしい本荘山の会の組織と団体であることがわかりました。

会長当時、北海道・大雪山から九州・屋久島の浦岳まで、日本の山々を登頂した人です。本荘山の会三十周年では、アフリカ・キリマンジャロへ、

四十周年では南米・アコンカグアへ、五十年では韓国・雪岳山を計画し、全てを成功させた人です。

個人的にはヒマラ

ヤ・エベレスト街道トレッキングや、ヨーロッパでは、モンブラン、マッターホルン、中国では四姑娘山等、世界的な山にも挑戦した人です。

山でも町でも、飲みつぷりは豪快で明るく楽しく座を盛り上げる達人と言われた人です。

安藤さんは、本荘山の会の会長を二十三年間務め、会員の先頭に立って指導し、素晴らしいリーダーとして会員を育ててくれた、本県でもまれにみる鳥海山を知り尽くした山男でした。



平成 21 年 12 月 5 日
年次晩餐会で安藤氏と共に
永年会員章を受ける

会(平成二十一年十一月二十八日、鶴の湯温泉)、永年会員となった年次晩餐会(平成二十一年十二月五日・品川プリンスホテル)、支部設立五十五周年祝賀会(平成二十六年十一月五日・ビューホテル)等で懇親を深めているが、特に、永年会員章受領のため上京し、宿泊した品川プリンスホテルに今野前支部長と三人同室した一夜は思い出に、はつきりと残っています。

品川の街を会場に向かう途中の坂道を登る時、足が痛いと言って苦しそうでした。

その夜、晩餐会終了後、年次晩餐会に招待されていた韓国山岳会会長・鄭基範さんが、本荘山の会との縁があり安藤さんに逢うためにわざわざ我が室を訪ねて来て、楽しい一夜を過ごしたことを思い出します。

五十五周年祝賀会でお会いしたのが最後、来年の六十周年祝賀会でお会いしたかったと、残念でなりません。飲み会での付き合いばかりでした。

安藤さんの安らかなご冥福を心からお祈りいたします。(合掌)

安藤武俊氏を偲んで

佐々木 民秀

学識高く、人望厚く、多くの岳人に親しまれてきた支部名誉顧問・安藤武俊氏が逝って早や二年になろうとしている。

私が安藤さんと初めて山行を共にしたのは、平成四年に韓国山岳会慶南支部とで行われた韓国の智異山・北漢山親善登山（姉妹山締結一周年記念）の時であった。

その後、平成十四年八月の締結十周年記念の鳥海山と太平山で行った慶南支部との交流登山では、宿舎の手配等大変お世話になった。

その間、平成十二年七月の支部山行赤田五山では、廃道となっていた笹森山や如意山（傾山）を案内していただいたこと等を記憶に留めている。

安藤さんは地元・鳥海山がホームグラウンドで、若いころから登り親しみ、昭和三十二年五月には、鳥海山北壁の第二登を仲間と共に果たし、下山はスキーで千蛇谷を滑降し、鳥越川の第二発電所に下山している。

鳥海山の恵みを再確認し、感謝するとして、平成二十一年に制定された「鳥海山の日」の選考委員を務め、「五月十一日」の選定に尽力している。

支部運営に当たっては、事あるごとに支援助をくださり、支部を想う心配りは特に篤く、本当にお世話になりました。心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。（台掌）



支南会慶山・鳥海山と交流登山（左）崔さん、安藤さん、平成14年8月



の入口に石碑が、新道に安藤氏の少い山が安藤氏が

友友 安藤武俊氏



放浪の歌
そんなにお前は
なぜ嘆く
草のしとねに
寝転んで
私のいうこと
お聞きあれ
人の浮世の
見栄をすて

日本山岳会全国支部懇談会に出席して

今野 昌雄

第三十四回全国支部懇談会が七月二十一日から二十二日に、北海道層雲峽温泉層雲閣グランドホテルで行われ、一六八名の参加であった。

開会式は西山泰正北海道支部長の歓迎の挨拶、小林政志日本山岳会会長の挨拶、藤木俊三北海道支部事務局長の司会で始まった。

記念講演は山岳写真家、層雲峽・大雪山岳写真ミュージアム館長で日本山岳会会員である市根井孝悦氏の「母な大地、大雪山に魅せられて・その魅力を全世界に」であった。

懇親会は西山支部長の開宴の挨拶、来賓の佐藤芳治川上町長挨拶、重廣恒夫日本山岳会副会長の乾杯、アイヌ民族舞踊、次回開催支部紹介と締めめの乾杯が渡邊雄二栃木支部長からあり、そ

安藤武俊氏

- ・昭和三十四年六月 日本山岳会秋田支部入会
- ・設立会員 会員番号四八六〇
- ・平成十九年四月 秋田支部名誉顧問
- ・平成二十一年十二月 日本山岳会永年会員
- ・平成二十九年四月五日逝去 (享年八十五才)



黒岳から旭岳方面を望む

の後、別の部屋で希望者による二次会があった。
七月二十二日の交流登山は銀泉台へ黒岳縦走に石川祐子さんと今野昌雄、黒岳へ石室往復が柴田勸さん、黒岳七合目・層雲峽付近巡りが鈴木裕子支部長の三コースに分かれて秋田支部は行動した。
各コースとも事故もなく目的を達成したとの事でありよりである。なおAコース二班は宮城の富塚和衛支部長、千葉正道副支部長、富塚真味子さん、山口千香子さん（会友）で六月栗駒山での三支部合同登山でも交流したメンバーであった。

黒岳縦走ではガスの晴れ間に、大雪山の山々を眺め、雄大な景色とちょうど見ごろのお花畑に感動した。秋田駒ヶ岳にある花も沢山咲いていたが、千島や樺太、シベリアの影響もあるとの事で、秋田の山で見られないキバナシオガマ、ホソバウツプソウ、キバナシヤクナゲ、チシモノキンバイソウ等も咲いていた。

交流登山の早朝雨が降ったので、中止になる事はないだろうかと、一瞬気になったが、ホテルで朝食を頂き、とにかく出発しホツとした。バス待ちの間強く降った雨も七時二十分、銀泉台(一四八〇m)から登り始める時、雨はほぼ止んでいた。

稜線では体がよろける程の強風もあったが、ガスも飛び、予報の通り回復、青空まで見え、雪溪の残る山々を眺めながらの山行になった。

赤岳(二〇七八.5m)、白雲岳分岐、北海岳(二二四九m)、赤石川を徒渉し石室(十三時四十八分)で遅い昼食をとり、十四時過ぎ石室を出て、黒岳山頂(一九八四.3m)はガスのため、展望はダメ。七合目まで下り、リフトに乗り、十六時のロープウェイで下山した。

今回のコースが御鉢平の以前私が歩いた反対側でラッキーだった。下山時にはシマリス、エゾシカも見ることができた。

ホテル会場での本部役員の適切なリードはじめ、山行での二班班長の大畑博子さんの気配り。副支部長・事務局長の藤木俊三・C.Lはガスと強風をものともせず、前後に移動し、徒渉地点でも安全を図ってくれた。

西山支部長、新妻徹、神埜和之の支部役員はじめ、北海道支部会員が山から戻った私たちを温かく迎えてくれた。これだけのスタンプを揃えられた北海道支部の日頃の活動に敬服し、感謝している。

Bコースは天気回復を待つで一時間遅れで登り、風は強かったものの山頂から展望を楽しみ、柴田さん達は急いで石室にも行ってきたとのこと。

Cコースも写真ギャラリーを見てからロープウェイやリフトに乗り、七合目で散策や展望を楽しんだとのこと。

二十一日層雲閣グランドホテルでは、栃木県の渡邊雄二(支部長、坂口三郎(元日山協会長)、前田文彦(事務局長)、秋田の柴田勸委員と今回も同室で世話になった。

また、この度の楽しい北海道支部懇談会参加の続きやフェリー等の手配、前後の宿泊、観光計画等は石川祐子委員に、車の運転では鈴木裕子支部長に全面的にお世話になった、北海道の旅だった。



2班 黒岳山頂



参加者
今野昌雄
鈴木裕子
柴田勸
石川祐子

第三十四回 東北・北海道地区集会報告

鎌田 倫夫

第三十四回東北・北海道地区集会在九月十五日(土)〜十六日(日)山形支部担当で鶴岡市羽黒町の宿坊「大進坊」で開催された。

秋田支部からは八名参加。二台の車に分乗し、鶴岡に向かった。

集会会場は宿坊。私は、宿坊泊は初めてであった。大進坊は羽黒山登拝口のすぐ近くで、三五〇年の歴史のある宿坊で、蔵か、派手さはなく、広々とした部屋でゆつくりと休むことが出来た。

講演会前に行われた支部長会議では次回開催地が宮城支部、二年後が青森支部に決定した。

集会是、山形支部の野堀嘉裕支部長の歓迎の挨拶から始まり、続いて山形支部略史、公益的事業の「学校から見える山」等の説明を受けた。

大進坊の坊主・早坂真一氏による記念講演は、出羽三山に於ける歴史・文化・生活、松尾芭蕉や藤沢周平等についてユーモアを交えての興味のあるお話だった。

交流会の食事は自然からの恵みを受けた、山菜・キノコ等の手間暇かけた精進料理で珍しく、美味しかった。

飯豊山に登ってから遅れて到着した北海道支部の二名を含め四十五名の参加者となり各支部の紹介などで盛大に和やかであった。

翌十六日の朝食前のご祈祷では、参加者全員の氏名を読み上げて登山安全

を祈祷していただいた。

朝食も精進料理、トチモチのお汁粉が珍しかった。

八時にバスで月山八合目駐車場に移動。車道は現在工事中で牧場地帯の迂回路を行く。バス内では月山の森林形態について野堀支部長から詳しく説明があった。

八合目で登山コース班とハイキングコース班に分かれ、九時登山開始、心配していた雨もなく、紅葉が既に始まっており、時々ガスの切れ間から錦絵のような景色が眺められた。

月山らしく修行中の白装束の団体とのすれ違いがさすがに多い。

仏生池小屋を過ぎ、オモワシ山、行者返しを無事越え、三角点を經由して月山山頂到着。ここで昼食。

一時に牛首へ下山開始。牛首からは月山リフト経由で志津温泉への下山希望者と別れる。

私は湯殿山神社へのルートを下山することにした。昭和五九年に職場の登山で神社から登ってきて以来である。

湯殿山への登山道は、現在は無いが、残雪期の登り口と思われる場所が装束場で、施薬避難小屋と古い神社らしき建物がある、ちよっとした広場になっている。ここで野堀支部長がドローンの講習会をしてくれた。重さは五〇〇ミリリットルペットボトル位であった。

やがて月光坂の下りになり梯子の連続である。二カ所か三カ所と予想していたが、五カ所とロープが一カ所あった。ここを通過すると間もなく湯殿山神社へ到着する。先に到着していたハイキングコース参加者と合流し、月山リフトでの下山チームを待つで大進坊に戻り、十八時頃、解散となった。



大進坊の玄関前で

ハイキングコース報告 福田光子

九月十五日、十時秋田市を出発、遊佐の道の駅で早めの昼食を済ませ国道三四五号線から、刈り入れ前の黄金色に輝く庄内平野のど真ん中「庄内東部広域農道」を一直線に南下する。目印の大鳥居は改修中で見当たらないが、順調に羽黒町の宿坊街に到着。
受付前に羽黒神社へ参拝を終える。会場の宿坊大進坊は、立派な門構えで堂々たる大屋根で迎えてくれた。

記念講演会は神殿を備えた大広間で、講師は坊主の早坂眞一氏、正装に身を正し「出羽三山の自然と文化」を篤く語られた。開山千四百年の歴史を誇る霊山出羽三山への篤い信仰心と山々の恵みを大切し、この地にしっかりと根付き、慌たしい二一世紀でも揺るがない本物があることに心惹かれた。

元会員で日本山岳会でも活躍した早坂敬二郎氏は坊主の弟様。東京農大山岳部出身、後輩の育成にも熱心でヒマラヤへの遠征記録もある人望篤い登山家でしたが、四五歳の時惜しくも雪崩事故に遭遇、広間には遺影が掲げられていた。

交流会はおもてなしの精進料理、かなりの手間暇掛けて丁寧に調理するというサンダリの煮物は、珍しく味わいながらご馳走になった。

十六日、朝六時坊守の御祈祷で安全登山を祈願する。精進料理の朝食もゴマ豆腐と栃餅が格別に美味しかった。

記念写真の後に月山八合目まではバス移動、月山高原を通り黄金の庄内平野を眼下に樹林帯を通過、野堀山形支部長から、故石井貞吉会員の山行や月山のブナについてのレクチャーがあった。八合目で弥陀ヶ原散策へ、草紅葉の草原を、木道渡りでおゼコウホネの地塘へと廻る。高いネットで保護され、花の時期でもないのに微かに葉っぱを覗いて帰る。地塘の対岸には、親離れしたばかりの小方毛が三羽、身じろぎもせずじつとした。

山頂付近にはうつつすらと雲がかかっているが、風もなく穏やかな山日和の天気になってくれた。予定時間通り八合目を後にして「ふるさとむら宝谷」

でお昼、地元産の宝谷蕎麦は、しっかりと歯ごたえもあり美味しかった。

次は大網の湯殿山大日坊へ。立派な山門、本堂入り口の祈願鯛口のお手綱にはお賽銭が結び点けられていた。本堂の左側から即身仏堂に進む。今日も沢山の信者さんが訪れていた。この即身仏は真如海上人、座禅を組み真っ赤な袈裟オレンジ金色の三角帽子をかぶり「いく世にも渡り苦しむ汝を救済する」という姿だ。上人は朝日村に生まれ、幼少の頃より仏教の教えに心惹かれ、青年時代より仏門に帰依出家し、寺を建て慈悲を施し生き仏として多くの人々に尊ばれ、二十代より即身仏を志していたという。

仏前で礼拝を済ませ、胎内潜りで全てのお参りを終え大日坊を後に、いよいよ最後の湯殿山奥の院参拝へ。大鳥居と参籠所がある仙人沢の大駐車場から専用バスで入り口まで、ここからは徒歩で更に白い幣束入りの梵天が建ち並ぶ参道を本宮へ、ここまで来ると本宮に神の領域に立ち入るといふ厳かで神聖な心持ちになる。神殿入り口で人形に切ったお祓い紙で汚れを落とし、足元の清流に流し身を清め、それから御神体の熱湯の噴きだす茶褐色の巨大な岩に裸足で登り、無心でお参りを済ませた。

最後の集合地でもある駐車場にもどり山行の一行を迎え、バスで羽黒町の大進坊に戻り一連の行事は無事に終了した。

参加者 福田光子 鈴木裕子

鎌田倫夫 堀井弘 川口廣志

石川祐子 柴田勸 熊谷光子

会務報告

◎事務局会議

九月十九日(水)午後一時から支部長宅・役員会で協議する六十周年記念事業について。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫
石川祐子

十月九日(火)午後一時から支部長宅・役員会で協議する六十周年記念事業及び寄付金について。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫
石川祐子

第二回役員会

十月十三日(土)午後一時から、泉コミセンで開催

・現在の支部執行状況及び会計の状況
・これまでの行事の報告と、来年四月から大幅値上げ予定の郵便局の振り込み手数料について。

・六十周年記念事業について

・日程表の確認。記念山行は太平山集中登山案、また、白子森登山について協議。記念誌発行等の経費の分担について。記念品、講演者等の検討を協議。

・山の日行事等に秋田支部の後援について、は、広く秋田支部の活動を知らせていただくためにも良いと思う。

・行事予定 秋の支部山行三森山、太平山歩道整備等の協力依頼。

出席者 鈴木裕子 佐藤和志

鎌田倫夫 石川祐子 佐藤博

川口廣志 三浦真六 佐々木長秀

安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二

藤田正義 柴田勸